

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	37572
事業名	ヒグマ等の市街地侵入抑制費					
評価担当課	所属名	環)環境都市推 環境対策課				
	課長名	濱田敏裕	担当者名	清尾崇、大堀武蔵	電話番号	011-211-2879
施策名	主	自然との共生とみどり豊かな都市づくりの推進				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	「さっぽろヒグマ基本計画」に基づいて、市民の安全確保のため、市街地周辺等のゾーニングに基づき侵入抑制策を実施する。			
		長期	ヒグマ等野生動物による人身事故を未然に防ぎ、市民の安全・安心を守る。同時に、野生動物との共生を実現し、生物多様性の保全を図っていく。			
	取組内容	ヒグマの出没は、過去には山中・郊外・市街地周辺に限られていたが、近年、市街地へ侵入する事例が起きているため、出没対応に加えて、侵入抑制策の推進が必要となっている。 「さっぽろヒグマ基本計画」に基づき、大学や地域との連携を深め、出没時の対応を充実させるとともに、被害を未然に防ぐため、市街地への侵入抑制策を進めるなど、総合的な対策を推進していく。				
実施結果	令和3年度に実施した主な市街地侵入抑制策に関する取組みは以下のとおり。 1 家庭菜園用電気柵貸出事業:31件(49組)貸出 2 家庭菜園用電気柵購入補助事業:43件交付 3 市民協働による草刈り等:草刈り5地区、放棄果樹伐採3地区 4 ヒグマ講座等:小学校10校、中学校5校、高校2校、出前講座5件 5 ヒグマ痕跡探しバスツアー:(コロナにより中止)					
事業実施における工夫点	「さっぽろヒグマ基本計画」により、市域を3つのゾーンに分け、それぞれの箇所に見合った市街地侵入抑制策を講じている。					
対象者	市民	開始	平成27年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律、北海道生物の多様性の保全等に関する条例					
他都市の状況	各政令指定都市において野生動物対策を講じている。なお、道内の市町村では、ヒグマの出没時の対応手順は作られているものの、ヒグマに関する総合的な計画は「北海道ヒグマ管理計画」、「知床半島ヒグマ保護管理方針(国、道、町による)」に限られる。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	11,485	15,000	9,819	52,000	
うち特定財源	0	2,720	1,733	2,720	
人工	1.0	1.0	1.0	1.0	
人件費	7,200	7,200	7,200	7,200	
計(事業費+人件費)	18,685	22,200	17,019	59,200	
事業費の内訳	令和3年度決算	ヒグマ基本計画改定:1,099千円、家庭菜園用電気柵購入補助:782千円、電気柵貸出・設置指導・データ整理:2,186千円、ヒグマ生息状況調査:1,474千円、エゾシカ捕獲事業:2,629千円、その他:1,649千円			
	令和4年度予算	ヒグマ基本計画改定:2,599千円、家庭菜園用電気柵購入補助:1,600千円、電気柵貸出・設置指導:2,577千円、河川の下草刈り:36,331千円、ヒグマ生息状況調査:1,474千円、エゾシカ捕獲事業:4,000千円、センサーカメラ・電気柵購入:2,666千円 その他:753千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	市民協働による草刈り等の実施地区数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	8	8	8	8	
活動指標2	指標名	市街地ヒグマ出没情報への対応件数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	95	設定なし	185	設定なし	
成果指標1	指標名	草刈り等実施区域におけるヒグマの出没件数			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	0	0	0	0	
成果指標2	指標名	(ヒグマの動態に関わるため、設定が難しい)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	地域住民等と草刈り等を実施した箇所においては、以降のヒグマの出没は見られていない。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	電気柵の購入補助制度については、毎年一定数の申請があるものの、更なる普及拡大のため、周知を積極的に行うなど引き続きを検証していく。なお、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、バスツアー等予定していた事業の一部は実施を見送った。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	侵入抑制用の電気柵の普及事業(貸出及び購入補助)については、市が主体となって行う一方、草刈りや放棄果樹伐採については、侵入抑制効果に加えて市民の意識醸成も図るため、地域住民や学校が主体となるよう促している。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	電気柵貸出事業では、貸出終了時アンケートにおいて、前年度に続き9割以上の利用者から「効果を実感できた」と回答があり、対象者のニーズに応えられている。			
市民参加の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	新しく始めた取組みについては、イベントの規模や補助率などの観点から検証を行いながら適切に実施する。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	・さっぽろヒグマ基本計画の改定 ・東区河川敷の大規模草刈り ・センサーカメラによる監視、電気柵の緊急設置等の対策強化		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	令和3年6月の東区でのヒグマ出没事案等を受けて、草刈りやセンサーカメラ・電気柵の設置等により、ヒグマの市街地への侵入防止策の強化を図った。また、近年のヒグマの出没状況を踏まえたヒグマ対策を改めて検討し、基本計画の見直しを行っている。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 令和4年度末に予定している「さっぽろヒグマ基本計画2023」の策定後、改定計画の周知(イベント開催、啓発品の改訂)を進めるほか、計画に基づいた取組を実施する。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 令和4年度末に予定している「さっぽろヒグマ基本計画2023」の策定後、次期APとも連動し調査及び取組の必要性を検討していくこととする。		見直し効果額	0